

「神は、ご自分の御子をお遣わしになり」 ローマ 8 : 3

I 「肉（罪の性質）によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました」。私たち人間が、罪の性質を持ち、罪の奴隷（悪いと分かっているでも悪い事をしてしまう、離れられない、縛られている）であるために、律法を完全に守る事による救いは不可能になった。律法（神の戒め、神の命令）は、人間をいのちに導くはずのものであったが、私達人間は、罪の奴隷である為に律法を完全に行う事は出来ず、救いに関して完全に無力であった。そのような私たち人間を神は、見捨てず、深く憐み、神の側で救いを備えて下さった。感謝します！

II 「神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉（肉体）と同じような形でお遣わしになり、肉（肉体）において罪を処罰されたのです」。

1. 神の驚くべき愛と恵み。神は、罪深い私達を愛され、私達が滅びる事を望まれず、私達の罪の為に、大切なひとり子、イエス様を世に遣わされ、主の十字架において、主が私達の罪の刑罰を身代わりに受けられる事により、私達の罪を処罰された。心から感謝します。

2. 注意点＝「御子を、罪深い肉の形でお遣わしになり」ではなく、「罪深い肉と同じような形でお遣わしになり」と言われてる点。「同じような」＝つまり、御子は、神でありながら、私達と同じ人間となり、肉体を持たれたが、罪の性質は、全く持つておられなかったという大切な真理。もし、御子に罪があれば、私達罪人の身代わりに刑罰を受ける資格がなくなる。全人類の中で、罪のない人間とされた御子のみが、私達の身代わりに死ぬ資格のある方だった。感謝！

3. なぜ、神である御子、主が、人となり、クリスマスに、この世に来なければならなかったのか？

① 律法を守ることが出来ない私達人間の代りに、主が「律法」を完全に守る必要があったから。私たち人間は、「律法の下に」あり、律法（神の大切な戒め、御命令、御心）をすでに破ってしまった。それゆえに、私達は、律法により罪に定められている。人間は、神と和解させられる前に、「律法」を守らなければならない。しかし、人間の誰も、律法を完全に守れる人はいない。主がクリスマスに世に来られたのは、私達の代表者となり、私たちに代わって、神の律法、御心を行う為だった。

② 人間の罪の刑罰を身代わりに受けるためには、人間になる必要があった。人間の代表者となり、「新しい人類」の代表になる為には、人間になる必要があった。罪が、人間の体において犯された以上、罪は、体において処罰されなければならない。私達の罪は、御子の体において処罰された。驚くべき恵み！

③ 私達に、新しい性質を与えて下さる為。私達は、「神のご性質にあずかる者」（Ⅱペテロ 1 : 4）とされるべき。それが可能となる道は、主が人間の性質を持たれ、この新しい性質を私達に与える事。

④ キリストは、私達と同じ人間となられ、「思いやり深い大祭司（人間を代表して神の前に近づかれ、神と人の仲介者になられる方）」になられる。主が、そのようなお方でなければ、私達は、神に近づき、祈る事は出来ない。「焼き尽くす火（罪をきよめる聖なるお方）」（ヘブル 12 : 29）である永遠の神の前に、思いやり深い大祭司であるイエス様なしでは、近づけない。聖書にこうある。

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」ヘブル4：15，16。神であるイエス様は、クリスマスに人となられ、この世で暮らされ、その悪と誘惑の力を体験的に知っておられる。それ故、この方は、私達に忍耐深く接する事、深く思いやり同情する事、力を与えることが出来、思いやり深い大祭司となっておられる。主は人となられたからこそ、私達の疲れ、飢え渴きを深く理解して下さる。私達が、信賴していた人に失望させられる事、人に裏切られる事の辛さ、深い悲しみ、涙を流す事、すべてをご存知で、深く理解して下さる。人間は、つらい時、「私の辛さは、人には分かってもらえない」と言うことがある。それは、ある意味で正しい叫びと思われる。なぜなら、人間には、限界があり、他の人の事も、自分の事さえ、完全に正しく理解する事は難しい。しかし、神であり人となられ、想像を絶する苦しみを受けられたイエス様は、私達の事を完全に理解し、思いやり愛し、共に寄り添い、支えて下さる。このような方は、世界中に、この方しかおられない。

⑤ 主が人となって下さらなければ、決して人間である私達に代わって、死を打ち負かす人はいなかった。死を打ち負かすには、人間的性質が死をくぐり抜け、その向こう側に抜け出なければならぬ。主は、それを成し遂げて下さった！「というのは、死がひとりの人（アダム）を通して来たように、死者の復活もひとりの人（キリスト）を通して来たからです」Iコリント15：21。死に下ったのが人間であった以上、人間となった方が、死に勝利し復活しなければならない。それ故に、神の御子は人間になる必要があった。

⑥ 悪魔を滅ぼし、人々を解放する為。人間の墮落以来、悪魔は、神に言って来た。「神よ。あなたは、人間を自分のかたちに造った。だが、今の人間を見るがいい。俺が、人間を征服したのだ。さあ、どんな手が打てるか？あなたの大計画は失敗だ」。しかし、当然のこと、神は、敗北者ではない。神は、悪魔より何倍も偉大な方である。神は、時満ちて、ご自身の大切な御子を人間としクリスマスに世に遣わし、御子を「律法の下に」ある者となさった。ガラテヤ4：4。御子は、誘惑を受ける事があり得る状態にされた。悪魔は思う存分に機会を与えられたが失敗した。悪魔は、主をつまづかせることも、罠にかけ引きずり下ろす事もできなかった。悪魔は、完全な敗北を喫した。「子たち（私達人間）はみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれていた人々を解放して下さるためでした」ヘブル2：14，15。祈り：主のクリスマスと十字架と復活の恵みを心から感謝します。そして今、この素晴らしい主が、インマヌエル（神は私達と共におられる）の主として、つらい時も、私達と共にいて、深い思いやりを持って、理解し、寄り添い、支えて下さる恵みを感謝します！